

主要レジャー施設の半数 「チケット代」今年値上げ、 前年から倍増

フリーパスは平均約 5 千円、3 年で 2 割高
一般券との料金格差は 3 千円超える

2025 年「主要レジャー施設(テーマパーク)」価格調査



本件照会先

飯島 大介 (調査担当)
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343 (直通)
情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/07/17

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2025 年に入場料の値上げが判明した国内主要レジャー施設は 71 施設で、前年の 37 施設から 1.9 倍に増加。特にテーマパークでは 100 施設中 51 施設が値上げし、初めて半数を超えた。一般券の平均価格は 1695 円(前年 1626 円)、フリーパスの平均価格は 4846 円(前年 4597 円)。ダイナミックプライシングの導入が進み、フリーパス料金は 5000 円に迫る。

株式会社帝国データバンクは、全国の主なレジャー施設におけるチケット料金動向について調査・分析を行った。

[調査対象] 全国の主なレジャー施設(遊園地・テーマパーク・動物園・水族館)計 192 施設。

なお、2024 年調査(190 施設)から、新たに「ちいかわパーク」「ジャングリア沖縄」の 2 施設を対象として追加した。

一般券(入場料) = チケット料金のうち、施設へ入場するための金額。

フリーパス = チケット料金のうち、入場料に加え、別に設定される 1Day パス料金または回数券料金(入場料が未設定時のみ)。

[注 2] 「遊園地」は、大規模な体験型アトラクション(遊具)を有するテーマパークを含む

[注 3] 一部施設での料金設定および施設区分の定義変更を行ったため、2024 年以前の価格について再集計を行った。

修正後の数値は本調査データに反映されている

主要レジャー施設の「チケット料金」値上げ、前年から倍増

国内の主要レジャー190施設(テーマパーク、水族館、動物園)のうち、2025年に入場料などの「チケット料金」を値上げする施設は71施設・37.4%判明した。前年(37施設・19.5%)に比べ、値上げとなるレジャー施設は1.9倍に増加し、2023年以降の調査で最多だった。なお、国内主要レジャー施設において2025年内に設定された入場料・フリーパス料金としての最高額は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン「1デイ・スタジオ・パス(大人1名当たり)」の1万1900円。

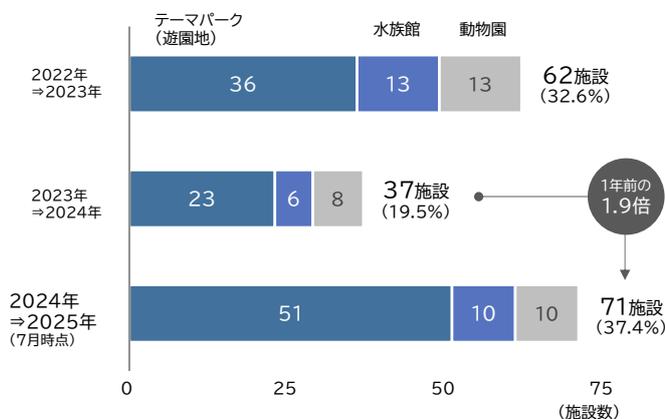
施設別に値上げた割合をみると、「テーマパーク(遊園地を含む)」は対象100施設のうち、51施設がフリーパスを含めたチケット代について値上げた。2024年(23施設)から倍増し、調査開始以降で初めて値上げ施設が全体の半数を超えた。「水族館」「動物園」(各10施設)も、それぞれ前年から値上げとなった施設数が増加した。

価格改定前後のチケット料金をみると、チケット種別や施設ジャンルによって傾向が分かれた。2025年におけるレジャー施設全体の「一般券(入場料)」平均価格(大人1名)は1695円だった。2024年平均(1626円)に比べ4.2%・69円上昇し、2022→23年における価格差と同水準だった。このうち、遊園地・テーマパークで多く導入されている、入場料とアトラクション乗り放題がセットとなった「フリーパス」の平均価格(最高額)は4846円となり、5.4%・249円増となったほか、全チケット種別で最も高額だった。

5月のGW期間や夏休み期間などのハイシーズン料金や、土日祝料金などダイナミックプライシング(変動料金制)の導入が進み、フリーパス料金は大人1名あたり5000円に迫っている。他方、一般券については価格の据え置きといった動きが多くみられた。この結果、一般的な入場料とフリーパスの平均価格差は、2022年の2571円・2.7倍から、2025年には3151円・2.9倍に拡大するなど、チケット種別間の料金格差が広がった。

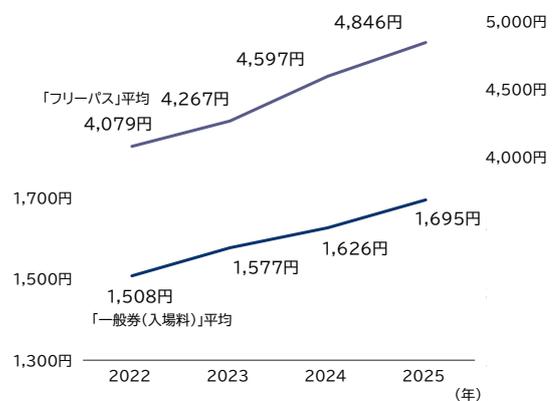
主要レジャー施設のチケット価格動向

主要レジャー施設 チケット料金値上げ動向



[注] 調査対象は190施設(2025年調査で新規対象となった2施設は除く)

チケット料金 平均価格推移



[注1] 変動料金制の場合はハイシーズン料金(最高値)を採用。

なお、フリーパスは入場料金を含む価格

[注2] 2025年は「ちいかわパーク」「ジャングリア沖縄」を加えた192施設の平均

施設ジャンル別にチケット料金平均をみると、最も「一般券」平均が高いのは「水族館」の2158円となり、前年平均から91円・4.4%増加した。調査開始以降で初めて2千円を超えた前年を上回り、チケット料金

の上昇傾向が続いた。「テーマパーク」では1622円となり、前年平均から74円・4.8%増加した。入場料平均で最も低いのは「動物園」で、2025年は1427円にとどまり、最高値の水族館に比べて700円超の価格差となった。動物園では、2022年時点(1283円)に比べると1割近い値上がりとなっているものの、テーマパークや水族館に比べると価格の伸びは緩やかだった。飼料代の高騰など物価高の影響で、動物園でも入場料を引き上げる動きが広がっているものの、運営事業者が市町村など自治体・公営企業のケースが多く、値上げ幅が少額にとどまるケースが目立った。

施設ジャンル別 チケット価格推移

レジャー施設別		2024年	2025年	前年比
遊園地・ テーマパーク	一般券	1,548円	1,622円	+4.8%
	フリーパス	4,597円	4,846円	+5.4%
水族館		2,067円	2,158円	+4.4%
動物園		1,381円	1,427円	+3.3%
一般券平均		1,626円	1,695円	+4.2%

〔注1〕 変動料金制の場合は、ハイシーズン料金(最高値)を採用。なお、フリーパスは入場料金を含む価格
 〔注2〕 2024年の料金は、前回調査(7月)以降の反映分を含むため一部修正がある

テーマパークチケットの「プレミアム化」が進む 課題は「客単価」と「満足度」の両立

値上げが「モノ」から「サービス」へと波及する動きが広がり、花火大会などコト消費にも「一部有料化」や「プレミアム化(高額化)」の動きが急速に進んでいる。値上げの背景には、電気代や人件費をはじめとした運営コストの高騰がある一方、繁忙期や土日祝日などに通常と異なる料金設定を行う「変動料金制(ダイナミックプライシング)」の導入・拡大、「待ち時間の短縮」など付加価値の高いチケット種別で上限価格を引き上げるなど、施設内の混雑緩和を目的とした値上げもみられる。テーマパークに比べると集客力の弱い動物園などの施設では、大幅な価格引き上げに課題もあるものの、レジャー施設全体では大規模な施設を中心にこれまでの客数＝「量」から客単価＝「質」を求める傾向が強まり、2026年以降も値上げの動きが続くものとみられる。

他方で、「若者のテーマパーク離れ」に代表される、特に若年層における高額な価格設定に対する来園意欲の減退や、価格に対する期待値とのズレから、コアなファンや既存顧客のリピート率が低下するといった動きもみられる。一部施設ではチケットの値上げが続く一方、顧客の満足度が低下するといった現象もみられ、売上アップと満足度のバランスにジレンマを抱えている。価格に見合う価値を来園者に提供できるかが、チケットの値上げを軸とした収益確保において重要となる。